

## 吉胡貝塚の人たちの暮らし —自然とよむに暮らし—

吉胡貝塚の人たちは、囲りが外洋、内湾、干潟、山、野原に囲まれた環境にあったため、海の幸、山の幸に恵まれた暮らしをしていました。

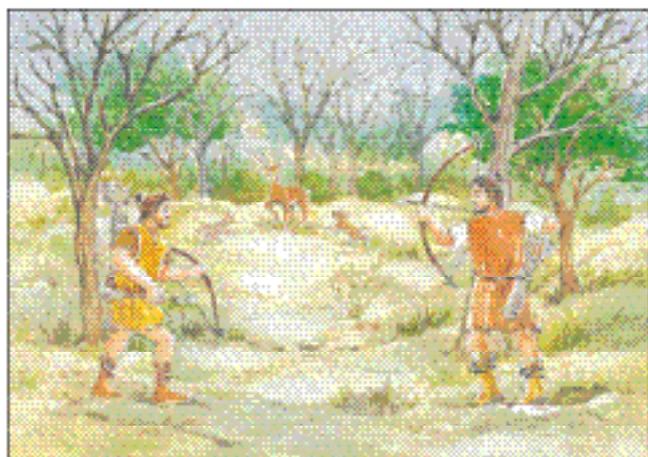
### 海の幸いっ

貝塚から見つかるマガキ、ハマグリ、アサリは、春から夏にかけて近くの干潟や浅瀬で盛んに捕られていました。また、クロダイ、スズキなどの大きな魚が、ヤスで突いて捕られていたほか、小さな魚は種類を選ばず、網によってまとめて捕られていました。

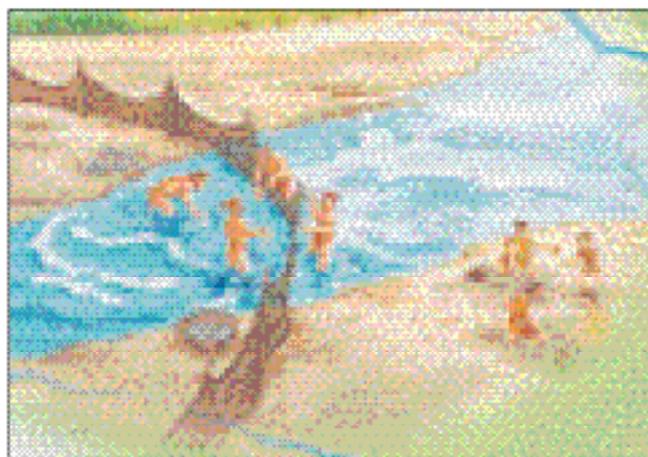


### 森と野の幸いっ

春は山菜、秋はキノコ類、テンブシとなるドングリ類・根菜類などが採られていました。イノシシ・シカ類などの大型の動物は、冬を中心に弓矢を使って捕られていました。



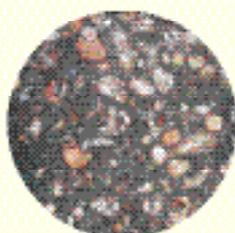
▲犬を使った狩猟の様子



▲干潟での網漁の様子

## 縄文人から学ぶ暮らし

縄文人たちは、豊かな自然によってもたらされた資源を、感謝を込めて大切にしていました。例えば、ハマグリを捕るときは、殻の大きさが2.5cm以下の小さなものはさけ、資源がなくならないようにしていました。自然との関係を大切にしていたことが分かります。現在盛んに行われている環境保護活動の原点が、すでにこの時代にあったのです。私たちが失いつつあるものを大切にする「こころ」の原点を知ることができます。



▲子どもに小さな貝を捕らないよう教えています。